

五戸総合病院病院での地域研修で経験できたこと

平成 31 年 2 月研修医
順天堂大学医学部附属浦安病院 初期臨床研修医 2 年目
壁村 大至

東京から新幹線とタクシーで約 4 時間、あたり一面の雪とそれ以上に冷たい風が吹く中、大学病院を離れ初めての場所で何もわからず緊張しながら、初めての地域研修に臨みました。

いざ仕事を始めると、上級医に相談しやすく、コメディカルの方々も優しく接していただき、同年代の方も多かったため、萎縮せず、愉しく働くことができました。

温かい環境の中で、大学病院における医療と比較して、「内科外来」「地域医療の役割」「医師の扱う“疾患・治療”の幅広さと自由」の 3 つを強く感じました。

私は内科研修を希望しました。病院内では、内科外来、入院管理を経験しました。内科外来は初診、再診共に行うことができ、救急搬送や時間外受診の内科の患者の診療を行います。順天堂浦安病院においても夜間の救急外来を経験しますが、自分で初診の患者を継続してフォローすることは初めてでした。研修医で内科外来を経験することがなかった中で、自分で帰宅可能を判断すること、再診と判断した患者の次回外来まで治療方針について考えることに、医師として責任感を強く感じる機会となりました。

また、病院外では往診を経験することができます。都市部にある大学病院では、患者は遠い場所からでも公共交通機関を利用し、時には周りの家族の力を借り、受診します。しかし、患者本人やその家族の高齢化も進み、気候も不安定な地域においては、離れた都市部の病院を受診することは難しく、適切な医療を受けることの障害となっていることを知りました。そのため、患者の自宅や施設への往診や村の診療所で診療を行い、医療や介護サービスが未介入の家族には行政やコメディカルと協力してサービスを提供する、大学病院とは違う医療のアプローチを経験できました。大学でも講義はありましたが、医療から患者へアプローチすることを目の当たりにし、「患者へ寄り添うこと」を強く感じました。

また、医師大学病院では内科や外科と分類され、再度そこから分類される診療科で疾患や治療法の選択が限定されます。五戸総合病院では全科の医師が在籍していませんが、都市部の病院へ受診できない患者もいるため、消化器内科の医師が消化器疾患以外にもⅡ型呼吸不全の呼吸器管理や慢性心不全の管理を行い、外科の医師が消化器腫瘍を手術するだけでなく、乳癌や悪性リンパ腫などの化学療法を行うことなど、その診療科以外とされている治療にも上級医が積極的に知識と技術を習得している姿から医師としてのあり方について強く影響を受けました。私は来年度から大学病院で医療を行います。が、“病院や診療科から患者を診ること”とは別に“地域の特性や患者背景”から考えることで、自分の医療の幅は自分で広げることができることを感じました。

最後になりましたが、往診や外来業務を中心に研修できるようにマネージメントしていただいた上級医の佐藤先生、地域研修の機会を作っていただいた安藤院長、他科にも関わらず様々な相談に乗っていただいた小林先生をはじめ、研修を円滑にできるように心を折っ

ていただいた先生方、事務の方々に感謝を申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

余談ですが、想像より生活に困ることはありませんでした。スーパーマーケット、薬局、コンビニエンスストア、外食もあり、五戸町だけでも困ることはありません。2月になると水抜きという生活に必須の手技も経験できるので、ひとりの人間としても強くなれます。2月の五戸おすすめです。

2月の1ヶ月間と短い期間ではありましたが、刺激の強い研修でした。今後また、ご一緒させていただく際には、変わらないご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。